

折笠農場系列

オーガニック加工場完成

事業費1.3億円 今夏稼働

【幕別】折笠農場（幕別町軍岡、折笠健二まさらお社長）のグループ会社「ベルセゾンファーム」（同、同）が同社北側に建設していたオーガニック農産物の加工施設が竣工（しゅんこう）した。有機農産物の生産から加工品の開発・製造までを自社で手掛け、「安全安心でおいしいオーガニックを開拓していく」（折笠社長）としている。工場の稼働は今夏を予定している。



総事業費は1億3000万円で、国の食料産業・6次産業化交付金を活用した。鉄骨造り平屋建て、延べ床面積198平方メートル。真空包装機やX線装置などの設備を備える。同社によると、オーガニック農産物に特化した加工施設は管内でも数少ない。ブランド名は「MASURA ORGANIC（マサラオーガニック）」で、折

新施設で「安全安心でおいしいオーガニックを開拓したい」と話す折笠社長



竣工した新施設の外観

0万円の売り上げ増を目指す。同社は2011年に有機JAS認証、18年には食の安全に取り組む農場に与えられる認証「JGAP」を取得した。新施設はHACCP対応の管理体制とする。

折笠社長は「有機認証や

JGAPなどで安全安心を、多品種栽培や生産方法でおいしさを提案していきたい。大産地の役割として顧客を創造していきたい」と話している。

（澤村真理子）

本はんでん
すぎうら
24-2323

笠社長の名前のほか、依田勉三が詠んだ「まさらおが心定めし北の海」の歌にちなんだ。コンセプトは「みんなに美味（おい）しいを開拓する」。

有機栽培のからし菜から種を収穫し、有機ジャガイモで作った酢と調合したマスタードや、卵を使わないマヨネーズ風調味料をはじめ、蒸し豆、トマトソース、ソイミルクジャムなど5年で9アイテムの製造体制を確立する。5年で約500